

福總新聞

(毎月十日廿五)二回
 定價 郵税五圓 月廿五
 廣告料 報費五圓 月廿五
 發行所 福總新聞社
 市島館三

……はリスク
 目丁五町平
 へ局藥邊野山

植田町紹介號 其二

舊盆夜話

植田 鮫川橋の由來

植田町 某氏 談

石城郡植田町と同郡錦村鮫川橋名銘の由來は舊幕時との間に架橋されてある鮫代に起る、時の相馬藩主相川橋は指呼の間に洋々たる馬候が江戸へ参勤交代が終海邊岸風致に富むた海面をへて歸途勿来の宿より此の望む景勝に彩られた場所を河岸に通行の折りであつてある木橋である。

此の橋について古から言ひ傳へられてゐる奇談がある。あらたに掲載して夜話の一興とする。

を帯びて河岸に立てる相馬過ぎて數里を経つる夏井川候目掛けて猛進し来たつたの河岸に順路を取つたのであつた、然れども當時あつたが而かも候が數里を武勇を以つて知られてゐた離れた夏井川の邊に來りし候は怪物何程の事やあるべしと彼の鮫は再び其の姿をきと直ちに家臣の差出す強河中に顯はして候に飛びか弓を押し取り引きしほつて大つたが果し得ず候の乗馬鮫目指してヒョウと放てはの臀部を喰ひ取つた、候手練誤らず大鮫の中身にグを怨めしげに見守りつゝ姿サツと計り射込むのであつた、流石猛威を奮ふ鮫もとなつて鮫川橋の名を出つた、候の勇氣にや恐れけん一時の至つたと云ふ話である。

波間に姿を隠したが彼の大鮫こそは執念深くも射當てられた箭をよつた其のまゝ、折り碎猛なる姿を波間にあらはして候の隙をねらうかの如く見へた候は彼れこの執念深き有様に一同の者共に注意を拂はせ海邊を

御前淵の怪奇談

植田町在。今の太友河原はその昔御前淵と云ふ名稱であつた。

其の當時の農民は生産せる野菜を此の沼の附近に開いて販賣しつゝ、あつたが偶々野菜が買れ残つた場合不思議にも村中ではついで見かけぬ一名の絶

世の美人が惚然あらはれ、殘餘のものを悉く買ひ取つてくられてゐたが農民共は或る好奇心から此の沼に永らく住む主と稱するものがあつたと云ふ事を聞傳へて居たのでこれが假りに姿を變へて賣求むるのではないかなどと疑憾

も高まり或日のこと美女の來るのを待ち受けて秘かに美女の着せる衣服の裾へ縫ひ針にて黒糸を縫込み。見隠れに彼女の行先を追跡した。思ひは處所に適中して美女ののほとりまで來ると身を躍らして沼の中に飛び入つたのであつた。追つて行つた農民共は驚いて立歸り仲間の者へ斯くと告げ知らせ居る間もなく俄

がにかき曇り大電鳴を起し大風雨となつてその沼附近一帶の地を海中へ没し去つてしまつたとの事であるとして附近の家も田も失つてしまつたその跡が即ち大友河原の稱と變つたものである。

因に太友河原の名は昔此の邊は一帶に大友氏の所有でつた關係により斯くの如く名銘された者であるとのことである。

將來植田沿海、漁業發展のために

小濱漁業組合長

豊田 丑松氏

現植田町會議員、小濱漁氏は決して一個人のために業組合長として町治に漁業萬事を支配する人にあらずに梓身の奮命を續けつゝ、あつて少くとも將來發展に資する豊田丑松氏は植田町中にする漁業其の他の事業に對ける賢明なる人材として精神的に活躍しつゝ、ある週知されてゐるが現在工事ことは町民大衆信望の的中の工事漁港築港の實現になつてゐる。

瓜の蔓へ茄子はならず
 町會議員 高木 一郎氏
 父子が其の人

橋與治郎氏

植田信用組合の忠勤者
 橋與治郎氏は組合長として遂に其の信用と實績を増大しつゝ、今日の隆昌を出してゐるが組合のために忠勤しつゝ、ある橋氏の功績大なるものありとして信望を有してゐる。

鈴木確氏

石城郡植田町に於ける素封家と名門を誇る現高倉行政副區長鈴木確氏は自然備はる其の徳望と認識に富む手腕とによつて克く區長秋名を誦はれてゐるが斯くの如く今日の名聲を揚ぐるに至つた其の力は一に副分團長豊田勝太郎氏等の功績偉

鈴木分團長の補佐

この副團長を持つ小濱青年團の誇り
 植田町小濱青年分團は郡下中の軌範青年團として美名を誦はれてゐるが斯くの如く今日の名聲を揚ぐるに至つた其の力は一に副分團長豊田勝太郎氏等の功績偉

菅野仙次氏

其の意氣に於て其の人格に於て植田町中堅人物中の隨一として知らるゝ現消防小頭菅野仙次氏は献身的消防界のため努力を續けてゐる關係上一般組員からの信望を双肩に擔つてゐる。

鈴木兼松氏

名區長としてこの名ある小濱行政區長
 鈴木兼松氏は植田町中にする漁業其の他の事業に對ける賢明なる人材として精神的に活躍しつゝ、ある週知されてゐるが現在工事ことは町民大衆信望の的中の工事漁港築港の實現になつてゐる。

半井清藏氏

人格並に識見に於て名區長としての名を慾まゝにしつゝ、あつて少くとも將來發展に資する豊田丑松氏は植田町中にする漁業其の他の事業に對ける賢明なる人材として精神的に活躍しつゝ、ある週知されてゐるが現在工事ことは町民大衆信望の的中の工事漁港築港の實現になつてゐる。

若松屋

旅情を十二分に
 旅情を十二分に
 旅情を十二分に

澁川鑛泉場

澁川を前に
 澁川を前に
 澁川を前に

福亭

植田町一福亭旅館は川中利安氏の經營で安心して宿される實直の旅館である。寢具の清潔と浴槽等總て衛生に適し、客には親切で其の付きて金八十錢から泊める大勉強振りであります。因に店主川中利安氏は植田信用組合に永らく勤められて最も信用ある人物である。

縣下の至寶人物として

小田吉治氏

事業家として知られ義勇者として其の名一世を掩ふ常磐炭礦の王者小田吉治氏の名は新聞に雑誌にその名を知らぬ者なき程であるが氏は常に國家的觀念に燃ゆる志止み難く公益事業に對しては自ら進んで盡力を惜まざる其の功勞により過般行はれたる未曾有の

大觀艦式に參列の光榮に浴した氏

赤井村の篤農家として知られ來村治上最も見るべきものゝ村長松本金治氏は性極あつると同時に明るい村としめて温良徳望を以つて村治に向上氣分に燃えつゝを掌る人格者である故に氏のあることも週知の事實でが同村に村長として就任以てある

多様多趣味な門傳辯護士夫妻

平町で門傳辯護士と云いばア、彼の名切を博した法律の學識者、門傳君か首かれる位である。謂哉氏は明治大學專門部出身、直ちに檢判事登用試験に優秀の成績でパスした程の人材である。氏の大呼する權利の主張や未法の廢除實論などに對しては絶對他の追隨を許さざる處であつたが氏の如き人にこそ亦多様多趣味があつて淨瑠璃義ある。

古市喜三郎氏

礦山業家として縣下に知られることとなり一意其の完、赤井村々會議員、古市喜成を圖りつゝあるが今次着三郎氏は其の後事業の進運手せる新坑こそは最も有望に伴ひ一會事務を擴大すべしと視せられ氏大成の一大緒で過般新たに採掘坑を増大あると過云はれてゐる

関加井嶽靈峰下に輝く人々

赤井村々長 松本金治氏

赤井村の篤農家として知られ來村治上最も見るべきものゝ村長松本金治氏は性極あつると同時に明るい村としめて温良徳望を以つて村治に向上氣分に燃えつゝを掌る人格者である故に氏のあることも週知の事實でが同村に村長として就任以てある

赤井小學校長大越氏の人格を賞揚す

大越校長は縣下校長中に校長である故に同氏が校長に於ける名校長として知られるとして同校に赴任以來實績、人性調達であるが涙の多大に擧り現在の輝きを示す教育上最も認識に爲む良しである

矢野采女氏

赤井梨聲價は今や全国的に至つた人に矢野采女氏が存なつた。同時に年々此の在ることを忘れてはならぬ事實業のため得る収入はぬ筈である。氏は早くより果實業の價格に上り同業の點に留意すると共に不眠不休の努力を以つて各都市との取引關係と信用状態に就て精進しつゝ今日に至つたものである

川瀬炭礦好況

常磐炭坑界のキリン兒川瀬の盛況は旭昇天の氣勢を示幸治氏は鋭意經營する川瀬に至り従つて氏の堅實な炭礦の向上に努めつゝあつる性格は一般から確認され其の血に流む努力は遂に、に至り將來に最も希望を報いらるゝに至り今や炭礦齋すこととなつた

赤井村

芹澤製材所の隆盛

關加井嶽山下に絶えず掩はれてゐるが場主芹澤氏、の廻轉する音高く其の極めて温良なる堅實なる隆昌氣分一溢に製材事業を營業味に富む人として縣下、ある芹澤製材所は製材業者中に屈指せらるゝ、其の後ますます隆榮氣分に人物である

法曹界の鋭人

眞木桓君

氏の祖父は有名な漢學者眞今や警備法曹界の權威として木水竹先生にして松ヶ岡公で將來の大成に近きつゝ、園に今尚ほ其の遺徳を偲ぶることは週知の事實で立憲べく記念碑が建設されてあ民政青年會の會長として實は純情燃ゆるが如き性情績を擧げてゐるが將來に於る氏純情燃ゆるが如き性情績を擧げてゐるが將來に於るは常に弱者の味方となつてける趣味としては讀書諷曲人權援護のために健闘をさ圍碁等であるが何れも甚能的であるとの評判が高い。

村長 越智又助氏

温良にして人格者たる氏はあることは論をまたない常に地方公共事業に貢献し尙同氏は同村に於ける信用つゝある人、村民の衆望を頭合長として篤實に周密に擔つて村會議員を四期もつ誠實に村民の至福を旨としとめた人物である。努力をされてゐる。而して氏眞面目であり地味廣野村として氏の如き村長であるだけに絶對色味の得たることは村を頗る明るい、人氏は飽く迄も村治をくする前提として氏の就行政の主腦者として適任で任を悉く喜んでゐる

炭礦々主 杉山今朝吉氏

今や杉山炭礦の信用ある名は勝つて兜の緒めめる寸法聲は全國的となつた。で事々に善所して居ることそれは同氏の堅實なる營業が愈々氏の信望をいや高め方針と炭質の最優なる事につゝあることであらう起因する次第であることは氏は亦國家的觀念に生きる論を俟たない。人下現内郷村軍人分會長として事業は愈々出て益々して軍人精神教養に悉く努力して常磐炭界に最優を誇らるとは鐵砲だが之れも亦本縣下しつゝあるの隆運に到達して一二を争ふ名人の域に達してゐる

土湯温泉の一大サービス

松川間自動車運轉

天下の名湯たるは何人も周知の事實である。信夫郡土湯温泉では、松川、土湯間を(逗留の顧客に限り)無料運送送迎する事になつた。世智辛ら此の世の中に實に驚異の一大奉仕である。未だ土湯の眞價を知らざる愛湯諸賢に一度の來土をお勧めする者である其の理想的模範旅館は左記であるを御紹介する

- 木村屋旅館 錦瀧旅館
- 富士屋旅館 赤湯岩城屋旅館
- 井柵屋旅館 全向瀧旅館
- 扇屋旅館 全春見屋旅館
- 泉屋旅館 川上温泉川上旅館

(指定自動車) 東北本線松川驛前

木村屋自動車部 電話二二番

松川驛前發 午前七時二十分より午後四時五十分迄は 各列車毎に發着致します

◆普通乗合貨片道金五十錢 但し日歸及御一泊の場合片道負擔 以上十軒が聯盟を作り松川驛に下車し滞在の客に限り無料で送り迎ひするの事を付記して置く

良品廉賣に勝る商略なし

磐城セメント特約代理店

金物 釜屋商店

問屋

磐城平町五丁目 電話九番 九九番 東京振替貯金口座一〇九五六

東北の名湯

高湯温泉 (岩代信夫郡)

客室 王子湯旅館

増築落成 後藤寅治

福島市より乗合自動車は左關迄で全通致しました